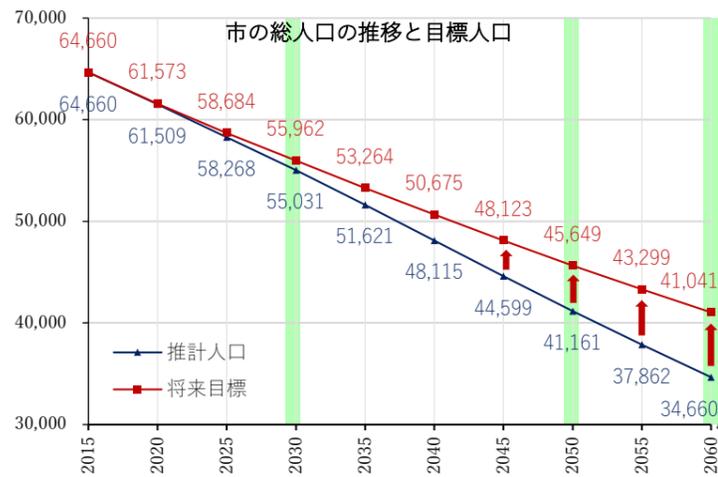


令和2年3月 丹波市人口ビジョン・丹（まごころ）の里創生総合戦略

人口ビジョン・創生総合戦略って？

丹波市では、これまでまの活性化に取り組んできましたが、人口減少に歯止めがかからない状況が続いています。人口ビジョン・創生総合戦略は、これからも続く人口減少に対応するため、人口減少の原因を明らかにしたうえで、そこからわかる課題の解決策を示したものです。

今のままだと、人口はどうなっていくの？ 何をめざすの？



丹波市では、転出超過による社会減と、出生数低下による自然減によって、人口減少が続いています。このまま効果的な対策がとれなかった場合は、20年後には、約25%減り48,115人に、40年後には、約46%減り34,660人になる推計です。

活力ある丹波市を維持するために、次の3つの人口目標を定め、2060年のまの姿（将来像）を目指します。

40年後に35,000人!?

2060年のまの姿（将来像）

市民一人ひとりが個性と持てる力を発揮し、持続的に発展するま

- ゴール1 人口減少に歯止めがかかり、人口構造が安定してきた
- ゴール2 市民の多くは、長年住み慣れた地域でいきいきと暮らしている
- ゴール3 様々なつながりによって担い手が増え、誰もが活躍している

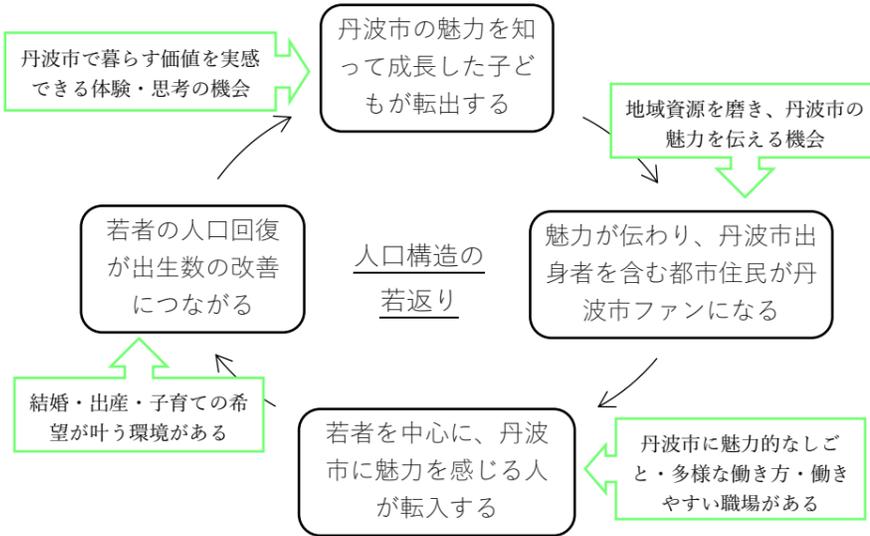
人口目標

- 2060年に41,000人
- 2030年以降、子どもの割合を増加
- 2050年以降、働く世代の割合を増加

どんなふうに取り組むの？

- 「丹波市に住みたい」
- 「魅力あるしごとをしたい」
- 「多くの人に出会い交流したい」
- 「結婚したい」
- 「子どもを持ちたい」

という希望を持つ若者を積極的に応援します。そして、様々な人生のストーリーに寄り添い、誰もが活躍できる地域づくりにつなげていきます。



どんなことに取り組むの？

基本目標1 希望が叶い、みんなで子育てを応援するまちをつくる

目標 合計特殊出生率 1.66→1.80

- 施策1-1 結婚・出産・子育ての希望が叶うまちをつくる
- 施策1-2 みんなで子育てを応援するまちをつくる

- 20代から30代の若者や子育て世代、とりわけ女性の人口回復が、今後の人口構造を左右するポイントなんだ。
- 出生数に占める第2児・第3児の割合が高いことから、第1児の出生が第2児以降の妊娠・出産につながっていることも大きな特徴なんだ。



基本目標2 魅力的なしごと・多様な働き方・働きやすい職場をつくる

目標 25~44歳女性の就業率 79.4%→82.0%

- 施策2-1 魅力的なしごとをつくる
- 施策2-2 多様な働き方・働きやすい職場をつくる



- 社会減の要因は進学にあり、大学等が多くある阪神圏を中心に流出しているんだ。
- 働いている人の割合は、男女とも国や県を上回っていて、女性のいわゆるM字カーブの底が浅くなってきている。これは、子育て世代の「子育てしながら働く」ニーズの高まりを表しているんだ。
- 女性が安心して働き暮らせることが、女性人口を回復させるポイントなんだ。

基本目標3 地域の魅力や人のつながりを活かして、移住・定住につなげる

目標 定住意思のある市民 71.6%→75.0%
年間観光入込客数 226万人→270万人

- 施策3-1 人と人のつながりをつくる
- 施策3-2 地域資源の魅力を活かす

- ライフステージの節目に、丹波市での暮らしが選択肢に挙がるよう、地域資源の情報発信、本市の魅力を実感できる体験ができる場や時間の過ごし方を提案していくことが重要なんだ。
- 丹波市での暮らしの価値を市民が実感し、それを発信することで共感を生み、共感から交流が生まれ、関係が繋がっていく。これが、丹波市の定住へのストーリーなんだ。



基本目標4 好循環で元気なまちをつくる

目標 地域活性化を実感している市民 41.5%→56.5%

- 施策4-1 関係を結び、好循環を生み出す
- 施策4-2 元気な地域が元気なまちをつくる



- 内発的な市民の活力と、多様な関わりによる外部活力（丹波市ファン）の両方で地域づくりの起点をつくっていく仕組みが必要なんだ。
- 自分たちの暮らしを自分たちでよくしていくためには、みんなで考え、新たな担い手（プレーヤー）が生まれ、良い流れに変えていく手段が必要なんだ。